

公益社団法人日本青年会議所 2026 年度 基本方針

中国地区担当常任理事 江角 彰則

担当する地区の 幸せな社会	<p>ともに挑戦し幸せな中国地区をつくる</p> <p>中国地区は山陰と山陽の異なる経済圏、地域性を有し、明るい豊かな社会の実現に向け、多様な運動が行われてきました。そして、近年では頻発する自然災害への対応にも直面しており、中国地区全体が発展をするためには、中国地区内の 52LOM の力を集結させ、ともに先人や子どもたちに誇れる地域へと昇華させなければなりません。各地で培った多様な運動の情報共有を図り、誰もが幸せな未来をつくるのは青年会議所だと自負し、主体的に行動を起こす人財にあふれている社会を創造します。</p>
地区協議会の役割	<p>中国地区内の 5 ブロック協議会と連携し、日本青年会議所と 52LOM をつなぐ連絡調整機関として全国各地の運動や会員拡大などの情報共有や事業支援を通して、LOM の発展、メンバーの成長に資するよう取り組み、地区全体の活性化を図ります。そして、LOM 単独では難しい防災連携や広域事業の機会を提供し、地域の垣根を越え、中国地区協議会全体の存在意義と結束力を高めながら、メンバーの成長を後押ししてまいります。</p>
地区連携事業 (政策手法)	<p>1.有事に備えた災害ネットワークの強化に関する事業</p> <p>2.第 4 回全国高校生政策甲子園に向けた地区予選</p> <p>3.JC カップ U-11 少年少女サッカー大会に向けた地区予選</p> <p>4.Leader's Academy の実施</p>
地区独自の 事業	<p>1.ASPAC、世界会議でのブース出展</p> <p>【背景】</p> <p>昨今、訪日外国人数が増加しており、インバウンド需要も高まっています。そして、全国の各地域の魅力に惹かれる外国人も多く、地域の PR やその先の観光や地域経済へつながる可能性を秘めています。そこで、2026 年は ASPAC(新潟)、世界会議(フィリピン)で開催され、国際の機会をつかみとりやすいため、主体的にコミットし、地域の魅力を再認識したり、気付かなかつた魅力を認識し地域の発展に寄与していく必要があります。</p> <p>【目的】</p> <p>中国地区内 5 ブロックの各地の魅力を海外の方に発信や体験の機会を設けることで、中国地区の魅力を感じていただくことを目的とします。</p> <p>【手法】</p> <p>中国地区内 5 ブロックの各地の特産品や観光情報、PR につながるように発信を行い、観光や地域経済の活性化に寄与することを期待します。</p> <p>2.中国地区コンファレンス 2026 の実施</p> <p>【背景】</p> <p>都市部への一極集中が進むなか、中国地方でも若い人財の流出や高齢化率の増加などの課題が山積し、広域経済や防災機能の弱体化が危ぶまれています。そこで、中国地区内 52LOM メンバーと地域住民が、ともに未来の姿を思い描き、課題解決に向け個人や家族、組織で取り組めることを知る、触れていただく機会をつくり、主体的に行動する人財にあふれた安全、安心な社会を実現する必要があります。</p> <p>【目的】</p> <p>開催地域の発展と参加者の主体性の喚起を目的とします。</p> <p>【手法】</p> <p>中国地区コンファレンス 2026 では、中国地区内 52LOM のメンバーや行政、諸団体の関係者が一堂に会した式典、そして、一般市民も参加し防災や環境問題について、普段の生活のなかで取り組むことができ</p>

	<p>る事例を持ち帰り行動していただける事業を実施することで、主体的に行動する人財にあふれた社会の実現に大きく前進する機会にします。</p> <p>3.中国地区褒賞事業の実施</p> <p>【背景】</p> <p>中国地区内 52LOM は、地域のリソースの活用や、日本青年会議所と連携をしながら運動を構築、展開し地域の発展や会員拡大で成果をあげ、LOM の発展やメンバーの人財育成に邁進されています。しかし、その成果をどのように生み出したのかを共有する機会がなく、その共有ができれば、中国地区内 52LOM それぞれが抱える課題の解決に寄与できるとともに、大きな運動となり地域や LOM の好循環を築くことも可能です。そこで、各地の素晴らしい運動を中国地区内 52LOM へ共有することによって、さらなる LOM の発展やメンバーの成長を後押ししていく必要があります。</p> <p>【目的】</p> <p>中国地区内 52LOM で取り組んでいる事業を共有し、中国地区内の各 LOM がより良い運動を生み出す学びを得ることを目的とします。</p> <p>【手法】</p> <p>各地で展開された運動を提示し、その運動をどのように工夫し構築したのかを共有するとともに、会員拡大に成功している LOM がどのような取り組みを行ったのかも共有し、これからの運動例として中国地区コンファレンス内で審査、表彰を行い、メンバーの士気の向上を図ります。また、この事業を通じて地区から AWARDS JAPAN への申請を支援します。</p>
ブロック連携 事業を促進する 具体的手法	1.FCP(Family Continuity Plan:家族継続計画)の導入に向けた運動の推進 2.日常から始めるカーポンニュートラル推進事業 3.ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援
地区による LOM 支援の 実施内容	1.会員数 10 名以下の LOM への支援推進 2.各ブロック協議会と連携した、中国地区内 52LOM の連携促進 3.中国地区内 52LOM への情報共有の仕組みの構築